

CBG オイルの作用について

私どもはこのたび、CBD アイソレート 8%に CBG を 2%加えた新たなオイル製剤を開発しました。この組成により、従来の CBD 単独製剤よりも幅広い疾患への応用が期待される溶液となりました。CBG（カンナビゲロール）は「すべてのカンナビノイドの母」と呼ばれ、大麻草からは 1%程度しか抽出されない希少カンナビノイドです。精神活性は一切なく、日本国内において合法的に使用可能です。以下に、現時点で確認されている主な薬理作用を示します。

主な薬理作用と臨床応用候補：

| 薬理作用 | 臨床応用・研究報告に基づく見解 |
|--------|---|
| 抗炎症作用 | IBD、自己免疫疾患、炎症性疾患全般に有望。炎症性サイトカインの抑制が確認されています。 |
| 抗菌作用 | 特に MRSA（多剤耐性黄色ブドウ球菌）に対する強力な抗菌活性が報告されています。 |
| 鎮痛作用 | 神経障害性疼痛に有用との報告あり。CBD との併用により疼痛緩和効果の増強が期待されます。 |
| 神経保護作用 | 神経変性疾患（パーキンソン病・ハンチントン病など）において、神経細胞保護の可能性。 |
| 抗腫瘍作用 | がん細胞の増殖抑制、アポトーシス誘導作用あり。CBD と異なる経路による補完的効果が期待されます。 |
| 眼圧低下作用 | 緑内障において房水流出促進による眼圧低下作用が報告されています。 |

使用方法（舌下投与）：

- ・ 1 日 1～2 回、0.5mL（スポイト半分）を舌下に滴下し、数分間含んでから飲み込みます。
- ・ 効果が弱いと感じる場合は 1.0mL（スポイト 1 杯）まで増量可能です。
- ・ 疼痛時は必要に応じて追加投与してください。

科学的補足：CBG の注目すべき特性

- ・ THC のような精神活性作用は一切なし。安全かつ合法。
- ・ 脂溶性が高く、CBD と同様にリンパ指向性を持つ。

→ 腫瘍やリンパ節病変における EPR 効果（腫瘍血管透過性）との関連が示唆されており、がん転移、脳腫瘍やリンパ腫への応用も視野に入ります。

- ・ CBD との併用により、エンドカンナビノイド系の多面的調整が可能。

まとめ：

CBG は「抗炎症」「抗菌」「鎮痛」「神経保護」「抗腫瘍」「眼圧低下」といった多彩な薬理作用を持ち、THC 非使用でも十分な臨床応用可能性を持つ有望な成分です。今後、がん・疼痛・自己免疫・神経疾患領域における補完療法としての導入が期待されます。